

AI課題分析 診断レポート

2026/2/8

課題の整理

- 困っている人物・部署： 原価管理部門
- 発生頻度と所要時間： 月50件の入力ミスが発生し、これに伴う再入力や確認作業に月20時間が費やされている。手戻りが月10件発生し、顧客対応の遅延が平均1日増加している。
- 影響を受けているKPI： 入力ミス数、再入力工数、顧客対応遅延日数

業務プロセスのギャップ分析

現状の業務フロー：

- 1入力作業 - 原価管理部門が2つの異なるシステムに同じ情報を手動で入力（時間：1件あたり約24分/担当者：原価管理担当者）
- 2確認作業 - 各部門で異なる入力ルールのため、他部門と連携して確認・検算（時間：1件あたり約12分/担当者：各部門担当者）
- 3修正作業 - 入力ミスが発覚した場合、再入力と二重確認（時間：1件あたり約10分/担当者：原価管理担当者）

属人化ポイントは、入力ルールの不統一とシステム間の連携不足による手動確認・修正。

理想的な次世代型フロー：

- 1自動入力・転記 - システム間を連携させ、初回入力後に他システムへ自動転記（時間削減：20分/件）
- 2統一ルールによる自動チェック - 部門間で統一された入力ルールに基づき、AIによる自動チェック（ミス発生率の低下）
- 3例外処理のエスカレーション - 特殊値や例外は自動検知し、手動での確認プロセスを経て承認フローへ（管理の一貫性確保）

具体的なAI実装モジュール案

データ要件：

- ・必要なデータ：原価情報、入力ルール、システム間のデータ形式
- ・取得元：社内システムデータベース、CSVファイル
- ・データの前処理：整備された統一フォーマットへの変換が必要
- ・データ量の見積もり：月間データ量は約500件

技術的アプローチ：

- ・RPAによる定型作業自動化と、機械学習による入力チェック
- ・推奨される技術スタック：UiPath（RPA）、Python（データ処理）、TensorFlow（機械学習）
- ・開発の難易度と期間：中程度の難易度、開発に約4～6ヶ月

ユーザーインターフェース：

- ・自動転記状況のダッシュボードを設置し、担当者がリアルタイムで確認
- ・既存システムへのプラグイン形式での連携
- ・モバイル対応は当面不要

KPI改善シミュレーション

短期的効果（導入後1～3ヶ月）：

- ・入力ミスが月5件以下に減少（約90%減）
- ・再入力工数の削減：月14時間削減（70%減）
- ・顧客対応遅延が1日から0.2日へ（80%削減）

中長期的効果（導入後6ヶ月～1年）：

- ・システムへの信頼性向上による部門間連携の強化
- ・ミス削減による社員のモチベーション向上、離職率の低下

投資対効果（ROI）：

- ・初期投資：約300万円

・年間削減効果：約400万円（人件費・時間コスト）

・ROI回収期間：約9ヶ月

リスク対応と実装の優先順位

リスクへの具体的な対応策：

- ・**権限問題**： 重要項目の自動転記には承認フローを設定し、修正権限を限定
- ・**例外処理**： 特殊値はAIが自動検出し、手動確認プロセスを設定してエスカレーション
- ・**品質担保**： 自動転記後の一一致率のモニタリングをダッシュボードで視覚化し、98%を下回った場合のアラート設定

段階的な実装アプローチ：

- ・最初にRPAを導入し、定型的な入力作業を自動化（短期間で効果を確認）
- ・検証が済んだ後、機械学習を用いた入力チェックを導入
- ・スモールスタートで原価管理部門から開始し、全社展開を視野に

改善提案まとめ

AIができる改善：

- ・**自動転記と入力チェックの自動化**
- ・実装難易度：中
- ・期待効果：ミス削減、工数削減、顧客対応の迅速化

AI以外でやるべき改善：

- ・**入力ルールの統一化**
- ・部門間でルールを統一し、共有する
- ・並行して進め、AI導入と相乗効果を図る

実行スケジュール（ロードマップ）案

フェーズ1（1～2ヶ月目）：現状分析・要件定義

- ・原価管理業務の詳細なヒアリング
- ・2つのシステムのデータ連携要件を定義
- ・マイルストーン：要件定義の完了

フェーズ2（3～4ヶ月目）：設計・開発・テスト

- ・RPAによる自動転記機能の設計・開発
- ・統一入力ルールに基づくAI入力チェックモデルの開発
- ・マイルストーン：RPAのテスト完了

フェーズ3（5～6ヶ月目）：導入・運用定着

- ・システム導入と運用開始
- ・社員へのトレーニングと運用マニュアルの整備
- ・マイルストーン：運用定着の達成

ご興味のある領域がございましたら、株式会社アールジーンまでお問い合わせください。

※株式会社アールジーン(<https://r-gene.co.jp/>)は、IoTNEWSとAIBoostの運営会社で、これまで多くの企業に対して、コンサルティングとシステム開発を行っております。